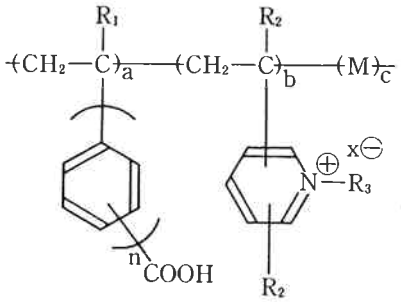
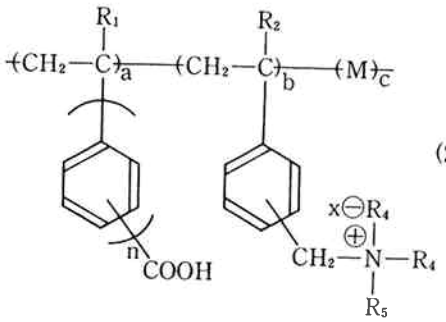
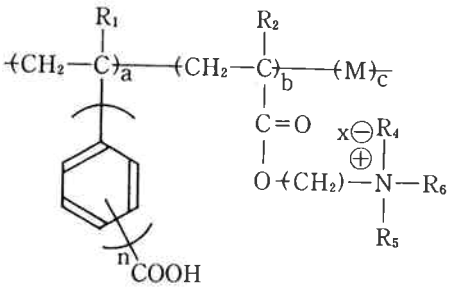
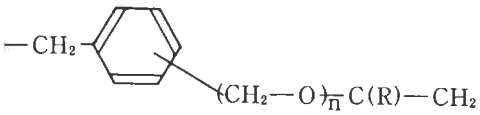
付

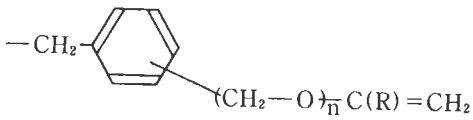
特許・実用新案登録一覧

——昭和59年度——

〈日本特許〉 74件

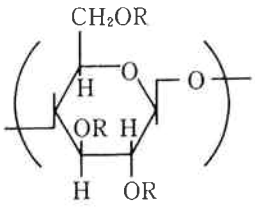
No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
1	54-65554 (54. 5.29) (村上 平賀	58-19602 (58. 4.19) 次雄, 井川 要一)	1185414 (59. 1.20) 一成	安定な次亜塩素酸カルシウム組成物	次亜塩素酸カルシウム無水物及び次亜塩素酸カルシウム二水化物を主成分とする次亜塩酸カルシウム組成物において，次亜塩素酸カルシウムが 60 w% 以上，水酸化カルシウムが 5 w% 以上，水分が 4 w% 以上で，且つ塩化カルシウムが 5 w% 以下の組成を有することを特徴とする安定な次亜塩素酸カルシウム組成物。
2	54-161630 (54.12.14) (朱山	58-18957 (58. 4.15) 秀雄)	1185147 (59. 1.20)	ホットメルト接着樹脂組成物	(A)エチレン－酢酸ビニル共重合体100重量部，(B)酸価 1～300 (KOH mg/g) の変性石油樹脂1～30重量部，(C)有機過酸化物0.01～1重量部を混合して成るホットメルト接着樹脂組成物。
3	55-19738 (55. 2.21) (鈴木	58-20971 (58. 4.26) 祐二, 西﨑	1187869 (59. 1.30) 克巳)	吸水性樹脂組成物	エチレン－酢酸ビニル共重合体けん化物とポリアクリル酸とポリビニルピロリドンとからなる吸水性樹脂組成物。
4	55-22780 (55. 2.27) (西﨑 鈴木	58-20972 (58. 4.26) 克巳, 山根 祐二)	1187870 (59. 1.30) 伸治	接着性樹脂組成物	エチレン－酢酸ビニル共重合体および／またはそのけん化物にポリエチレンイミンおよびポリアクリル酸を配合してなる接着性に優れた樹脂組成物。
5	56-6472 (56. 1.21) (西﨑 山根	58-20973 (58. 4.26) 克巳, 小川 伸治)	1187875 (59. 1.30) 良和	成形用樹脂組成物	メルトインデックス 0.1～400 g/10 mm，酢酸ビニル含有量1～60重量%のエチレン－酢酸ビニル共重合体100重量部に対しシリカを1～200重量部，エポキシ樹脂を0.1～50重量部配合してなる成形用樹脂組成物。
6	50-14823 (50. 2. 6) (井本 有吉	58-25102 (58. 5.25) 博, 佐藤 隆司, 下村	1192860 (59. 2.29) 昌利 清一)	クロロプレンゴム組成物	酸化カルシウム及び分子量200～1500の範囲のポリエチレングリコールを原料ゴム100重量部に対して0.2～5.0重量部の範囲で使用することを特徴とする流動床式常圧連続加流用クロロプレンゴム組成物。
7	50-139196 (50.11.21) (清田 清水	58-23407 (58. 5.14) 徹, 浅海 明彦)	1192869 (59. 2.29) 俊一	高分子電解質複合体の製法	水と水に混和性のある少なくとも一種の酸および／または有機溶媒からなる混合溶媒の存在下に，下記一般式(1)～(3)  (1)

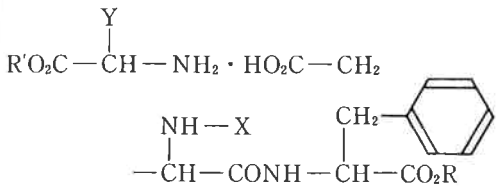
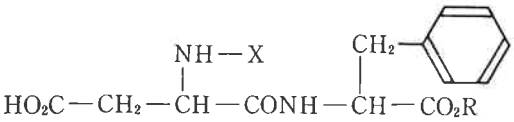
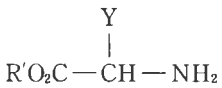
No.	出願番号（出願月日）	公告番号（公告月日）	登録番号（登録月日）	発明の名称	要旨
7					 (2)  (3) （ただし，R_1，R_2 は水素原子または炭素数1ないし4のアルキル基である。R_3 は $-CH_2-C(R)=CH_2$、 $\overset{}{\leftarrow}CH_2\underset{m}{\rightarrow}COOC(R)=CH_2$、 $\leftarrow CH_2\underset{m}{\rightarrow}COOCH_2-C(R)=CH_2$、 $\leftarrow CH_2\underset{m}{\rightarrow}O-C(R)=CH_2$、 $\leftarrow CH_2\underset{m}{\rightarrow}O-CH_2-C(R)=CH_2$ または、  （Rは水素原子またはメチル基である。 mは1ないし3の任意の数である。nは0または1の数である。）の一種である。 R_4，R_5 および R_6 の中で一つ以上は次の基を含むことを必要とする。

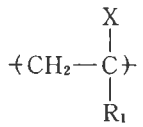
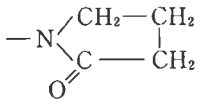
No.	出願番号 （出願月日）	公告番号 （公告月日）	登録番号 （登録月日）	発明の名称	要旨
7					$-CH_2-C(R)=CH_2$、 $\text{-}(CH_2)_m\text{-}COOC(R)=CH_2$、 $\text{-}(CH_2)_m\text{-}COOCH_2-C(R)=CH_2$、 $\text{-}(CH_2)_m\text{-}O-C(R)=CH_2$、 $\text{-}(CH_2)_m\text{-}O-CH_2-C(R)=CH_2$、 $\text{-}(CH_2)_m\text{-}CONH-C(R)=CH_2$、 または  （Rは水素原子またはメチル基である。 mは1ないし3の任意の数である。nは0または1の数である。）である。 また R_4, R_5 および R_6 の中で上記した基で満たされていないものは炭素数1ないし4のアルキル基またはアルキロール基である。 aは70以下の任意の数である。bは10以上の任意の数である。cは0を含む任意の数である。xはハロゲン原子または水酸基である。Mはビニル単量体および／またはエチレン性二重結合を有する単量体である。） で示される少なくとも一種の重合体とスルホン酸および／またはスルホン酸塩を含む強電解質型ポリアニオンとを反応せしめることを特徴とする高分子電解質複合体の製法。
8	51-25526 (51. 3.11) （宮之原　勲，宮崎　弘 河村　秀雄）	57-42000 (57. 9. 6)	1192874 (59. 2.29)	スラッジの改質法	金属水酸化物を含有するスラッジに軽焼マグネシアを添加することにより，スラッジの pH を9以上とすることを特徴とするスラッジの改質法。
9	51-76488 (51. 6.30) （大野省太郎，山県　義則）	58-25342 (58. 5.26)	1192878 (59. 2.29)	多孔性合成樹脂膜の製造方法	溶剤に溶解した合成樹脂を板上に流延した後，該溶剤の融点以下に冷却した該合成樹脂に対して非溶剤となる溶剤に浸漬して合成樹脂溶液を固化し，この際表面層に剝離可能な層を形成せしめ，この層を剝離し，かくして得られた剝離膜を該合成樹脂に対して非溶剤となり，かつ該合成樹脂の溶剤とよく混合する冷却した溶剤で急激な温度変化を防ぎつつ洗滌し，徐々に室温に戻して乾燥することを特徴とする孔径分布が狭く，孔が厚み方向にほぼ垂直に続いている多孔性合成樹脂膜の製造方法。 溶剤に溶解した合成樹脂を板上に流延した後，該溶剤の融点以下に冷却した該合成樹脂に

No.	出願番号（出願月日）	公告番号（公告月日）	登録番号（登録月日）	発明の名称	要旨
9					対して非溶剤となる溶剤に浸漬して合成樹脂溶液を固化し，この際表面層に剥離可能な層を形成せしめ，この層を剥離し，かくして得られた剥離膜を該合成樹脂に対して非溶剤となり，かつ，該合成樹脂の溶剤とよく混合する冷却した溶剤で急激な温度変化を防ぎつつ洗滌し徐々に室温に戻して乾燥して得られる多孔性合成樹脂膜の非溶剤浸漬面をエッチングすることを特徴とする孔径分布が狭く孔が厚み方向にほぼ垂直に続いている貫通多孔を有する合成樹脂膜の製造方法。
10	55-119875（55. 9. 1）（毛利 隆，杉森 正敏，崎山 和孝）	57-52430（57.11. 8）	1194514（59. 3.12）	電解用陰極	金属からなる基体表面に，(1)ニッケル塩(2)ニッケルと共折が可能であり，かつニッケルより卑な電位を示す犠牲金属の塩の少なくとも一種，(3)可溶性含硫黄化合物の少なくとも一種を溶解した水溶液を用い，ニッケル合金メッキを行い，次いで，熱処理を施した後に，該メッキ被膜中の犠牲金属の少なくとも一部を，選択的に除去せしめてなる電解用陰極。
11	55-120674（55. 9. 2）（毛利 隆，杉森 正敏，崎山 和孝）	57-52431（57.11. 8）	1194515（59. 3.12）	電解用陰極	金属からなる基体表面に，(1)ニッケル塩，(2)ニッケルと共折が可能であり，しかもニッケルよりも卑な電位を示す犠牲金属の塩の少なくとも一種，(3)可溶性含硫黄化合物の少なくとも一種，(4)アンモニウムイオンを溶解した，水溶液を用いニッケル合金メッキを行い，次いで，熱処理を施した後に，該メッキ被膜中の犠牲金属の少なくとも一部を選択的に除去せしめてなる電解用陰極。
12	50-53260（50. 5. 6）（宮之原 勲，松岡 亨）	58-30287（58. 6.28）	1194566（59. 3.12）	ハイドロキノン水溶液の製造方法	パラジイソプロピルベンゼンを酸化して得たパラジイソプロンピルベンゼンハイドロパーオキサイドの酸分解反応液をアルカリ水溶液で中和し，ついで，蒸留により，アセトンを留去し，その残留水溶液から有機溶剤で有機性不純分を抽出除去して，ハイドロキノン水溶液を製造するにあたり，前記中和の終点を，pH 3.0 以下に保持することを特徴とするハイドロキノン水溶液の製造方法。
13	54-113571（54. 9. 6）（村上 次雄，菊地 光雄，井川 一成）	58-29245（58. 6.21）	1195611（59. 3.12）	粗大次亜塩素酸カルシウム二水化物の製造方法	次亜塩素酸カルシウム二水化物を製造する方法に於て (1) 水酸化カルシウム及び／又は二塩基性次亜塩素酸カルシウムの懸濁液を塩素化して半塩基性次亜塩素酸カルシウムを晶出させ， (2) (1)で得られた半塩基性次亜塩素酸カリシウムを塩素化して次亜塩素酸カルシウム二水化物を晶出させる際，種晶として次亜塩素酸カルシウム二水化物のa，b，cの各軸の比が $0.5 \leqq b/a \leqq 2.0$ $c/a \geqq 1.5$ であり，かつC軸が5ミクロン以上である柱状次亜塩素酸カルシウム二水化物を添加する，ことを特徴とする粗大次亜塩素酸カルシウム二水化物の製造方法。

No.	出願番号 （出願月日）	公告番号 （公告月日）	登録番号 （登録月日）	発明の名称	要旨
14	51-104975 （51. 9. 3） （大野省太郎，小山 清水 明彦）	58-32170 （58. 7.11）	1199411 （59. 4. 5） 憲治	多孔性合成樹脂膜の製造法	易熱分解性の成分を20～40%（重量組成）含むAB型あるいはABA型ブロック共重合体薄膜を熱処理し，易熱分解性成分を熱分解して薄膜外に除去することを特徴とする多孔性合成樹脂膜の製造法。
15	51-109436 （51. 9.14） （高橋 浅海	58-33886 （58. 7.22） 堅二，清田 俊一，清水	1199412 （59. 4. 5） 徹 明彦）	陽イオン交換膜並びにその製法	スルホン酸基を結合しているパーフルオロカーボン重合体膜と該重合体膜に存在するラクトン環を含む重合体より構成されてなる陽イオン交換膜。 スルホン酸基あるいは加水分解によってスルホン酸基になりうる基を結合しているパーフルオロカーボン重合体膜にラクトン環を有するビニル単量体またはラクトン環を形成しうるジオレフイン単量体を必要に応じて架橋剤および／またはその他の単量体とともに含浸せしめたのち重合すること，および上記において加水分解によってスルホン酸基になりうる基を結合しているパーフルオロカーボン重合体膜にラクトン環を有するビニル単量体またはラクトン環を形成しうるジオレフイン単量体を必要に応じて架橋剤および／またはその他の単量体とともに含浸せしめたのち重合する場合は，さらにスルホン酸基になりうる基をスルホン酸基に変換することからなることを特徴とするスルホン酸基を結合しているパーフルオロカーボン重合体膜と該膜に存在するラクトン環を含む重合体より構成されてなる陽イオン交換膜の製法。
16	51-129328 （47. 5.30） （47-53010の分割）	57-2055 （57. 1.13）	1199417 （59. 4. 5）	水処理材の製造法	不活性ガス雰囲気下で加熱分解して得られたポリ塩化ビニルの部分脱塩酸物をアルキルポリアミンと反応せしめ，更に，下記(1)群の化合物の中から少なくとも一種を反応せしめることを特徴とする水処理材の製造法。 (1) 水硫化物，クロル酢酸類，カルボニル基またはチオカルボニル基をもつ化合物。
17	54-112375 （54. 9. 4） （村上 井川	58-33161 （58. 7.18） 次雄，菊地 一成）	1199468 （59. 4. 5） 光雄	次亜塩素酸カルシウム組成物	次亜塩素酸カルシウム組成物において，次亜塩素酸カルシウムが実質的に次亜塩素酸カルシウム二水化物の単結晶からなり，かつ，該次亜塩素酸カルシウムを60～80重量%，水酸化カルシウム5重量%未満含む次亜塩素酸カルシウム組成物の比表面積（プレーン法で求めた値＝プレーン値）が1500 cm^2/g 以下であることを特徴とする次亜塩素酸カルシウム組成物。
18	51-74499 （51. 6.25） （井村	58-35526 （58. 8. 3） 信一，大鶴	1201480 （59. 4. 5） 雅昭）	ポリー2，3-ジヒドロフランの製造方法	光の照射下，鉄ペンタカルボニル並びにフリーデルクラフト型触媒及び／又はアルキル金属化合物の存在下で，2，5-ジヒドロフランを単量体異性化重合させることを特徴とするポリー2，3-ジヒドロフランの製造方法。
19	55-111057 （55. 8.14） （森下	58-36011 （58. 8. 6） 延男，鈴木	1201586 （59. 4.25） 祐二）	接着性樹脂組成物	(A)エチレン含有量が80～98モル%の範囲内にあるエチレン－酢酸ビニル共重合体および／またはそのケン化物100重量部，

No.	出願番号（出願月日）	公告番号（公告月日）	登録番号（登録月日）	発明の名称	要旨
19					(B)式  〔式中Rは水素，メチル基，ヒドロキシエチル基，ヒドロキシプロピル基， $\text{-}(CH_2\text{-}CH(CH_3)\text{-}O)_X\text{-}H$（Xは1以上の整数）， アセチル基， および $\text{-}CH_2COOM$（Mはいずれも水素またはアルカリ金属）の中から選ばれる1種以上の置換基を示す〕の反復単位を有するセルロース誘導体の一種または二種以上1～50重量部および(C)有機過酸化物0～1部とからなる接着性樹脂組成物。
20	55-139881 (55.10. 8) （西﨑　克巳，森下　延男）	58-34514 (58. 7.27)	1201587 (59. 4.25)	接着方法	ポリエステル樹脂とポリエステル樹脂あるいは，他の基材を接着する方法において，エチレン－酢酸ビニル共重合体および／またはそのケン化物100重量部と，塩素化ポリエチレン10～300重量部からなる樹脂組成物を接着剤として用いることを特徴とする接着方法。
21	55-143015 (55.10.15) （西﨑　克巳，森下　延男）	58-36015 (58. 8. 6)	1201588 (59. 4.25)	樹脂組成物	エチレン成分が35～75重量%であるエチレン－酢酸ビニル共重合体15～70重量部の存在下に塩化ビニルモノマーもしくは塩化ビニルモノマーを主体とするモノマー混合物30～85重量部を重合させることにより得られる軟質塩化ビニル系グラフト共重合体100重量部とフエノール樹脂0.5～50重量部からなる透明性にすぐれた樹脂組成物。
22	55-163359 (55.11.21) （西﨑　克巳，森下　延男）	58-36016 (58. 8. 6)	1201589 (59. 4.25)	樹脂組成物	エチレン成分が35～75重量%であるエチレン－酢酸ビニル共重合体15～70重量部の存在下に塩化ビニルモノマーもしくは塩化ビニルモノマーを主体とするモノマー混合物30～85重量部を重合させることにより得られる軟質塩化ビニル系グラフト共重合体100重量部に対しテルペン樹脂0.5～50重量部を配合してなる透明性にすぐれた樹脂組成物。
23	53-63001 (53. 5.26) （小柴　淳治，高橋　薫 吉田　博幸，五十嵐　昇） （東芝セラミックス㈱と共願）	58-30958 (58. 7. 2)	1202644 (59. 4.25)	β－アルミナ隔膜の再生法	電解電圧が初期電解電圧より2V以下増加した電解用β－アルミナ隔膜を750°C以上で，且つβ－アルミナ隔膜の焼結温度以下の温度で加熱処理することを特徴とする溶融金属ナトリウム電解精製用又は溶触ナトリウム塩電解用β－アルミナ隔膜の再生法。

No.	出願番号（出願月日）	公告番号（公告月日）	登録番号（登録月日）	発明の名称	要旨
24	49-66595 (49. 6.13) (森下 悟，新堀 圭介 北 俊英) (東亜合成化学と共願)	58-35737 (58. 8. 4)	1204742 (59. 5.11)	ゼオライトの再生処理方法	1，1，1-トリクロルエタンの精製，乾燥に使用したゼオライトを，窒素，二酸化炭素，アルゴン，ヘリウムまたはこれらの混合気体と接触させながら加熱して再生するにあたり，常温から1，1，1-トリクロルエタンの沸点近傍の範囲の温度でまず第一段加熱を行い，次いで前記第一段加熱の温度を越え 400°C までの温度範囲の温度で更に加熱することを特徴とするゼオライトの再生処理方法。
25	52-68883 (52. 6.13) (清田 徹，清水 明彦)	58-35531 (58. 8. 3)	1204762 (59. 5.11)	陽イオン交換膜の性能向上の方法	陽イオン交換基を含むフッ素樹脂陽イオン交換膜を水との混和性を有する有機溶媒で膨潤させ、次いで該溶媒を該膜から除去したのち，塩酸で処理することを特徴とする，陽イオン交換膜の性能向上の方法。
26	53-147138 (53.11.30) (小山 清孝，野中 悠次 伊藤 幹雄) (相模中央化学研究所と共願)	58-35985 (58. 8. 5)	1204768 (59. 5.11)	ジペプチドエステルとアミノ酸エステルとの付加化合物	一般式  (式中Xはベンジルオキシカルボニル基，Yはメチル基，イソプロピル基，イソブチル基，ベンジル基又は p- ヒドロキシベンジル基，R及びR′はメチル基又はエチル基を表わす。RとR′は共通であっても別異であってもよいが，Yがベンジル基のときは共通でないものとする。）で示され，一般式中の  単位が LL- 型のジペプチドエステルで，  単位が D- 型又は D- 型に富むアミノ酸エステルである化合物。
27	53-45262 (53. 4.19) (福田 三寿，田子 和夫 清水 明彦)	58-37321 (58. 8.16)	1205213 (59. 5.11)	アニオン重合方法	重合溶媒中でアニオン重合可能な単量体を重合開始剤の存在下で重合するにあたり，下記の操作〔Ⅰ〕に次いで操作〔Ⅱ〕を施した重合系にアニオン重合可能な単量体および重合開始剤を導入し，重合することを特徴とするアニオン重合方法。 操作〔Ⅰ〕 重合溶媒のみあるいは重合溶媒と不

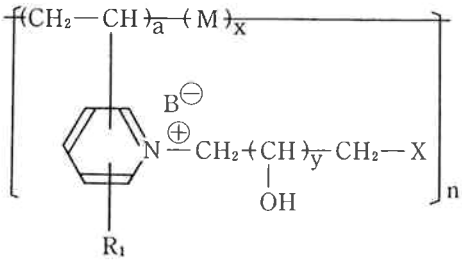
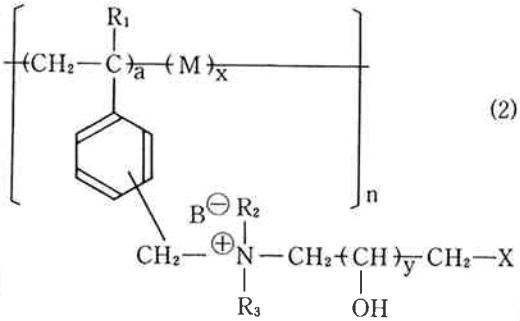
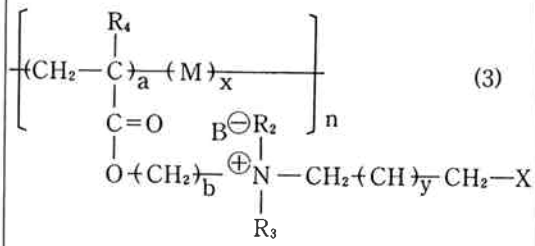
No.	出願番号 （出願月日）	公告番号 （公告月日）	登録番号 （登録月日）	発明の名称	要旨
27					活性気体から成る重合系に，重合阻害物質の存在しない状態で着色を呈する有機金属化合物の溶液を系が着色を呈するまで添付する。 操作〔II〕 失活剤を，系の着色が少なくとも殆んど認められなくなるまで添加し該有機金属化合物を除去する。
28	54-164005 (54.12.19) （鈴木 祐二，麻生 慶紀）	58-40989 (58. 9. 9)	1205243 (59. 5.11)	吸水性樹脂組成物	エチレン含量が80～98モル%の範囲内にあり，酢酸基の20%以上を水酸基に変換したエチレン－酢酸ビニル共重合体けん化物100重量部と，式  （式中 R_1 は水素またはアルキル基であり，Xは －COOM（Mは水素またはアルカリ金属である），または  である）の反復単位を主体とする水溶性高分子5～200重量部とからなる吸水性樹脂組成物。
29	51-103600 (51. 9. 1) （近藤 赫文，小宮 克夫 岩本 英次）	58-34449 (58. 7.27)	1207122 (59. 5.11)	β－フエニルエチルアルコールの製造法	スチレンオキシドを液相で，スチレンオキシド100重量部に対して約1ないし約30重量部の水及びアルカリ性物質の存在下，ラネーニッケルを触媒として，温度 10°C 以下で水素化反応させることを特徴とする β－フエニルエチルアルコールの製造法。
30	51-135275 (51.11.12) （有家 潤二，前田 一）	58-34409 (58. 7.26)	1207124 (59. 5.11)	塩基性炭酸マグネシウムの製造方法	巾 1～10μ，長さ 50～200μ の針柱状結晶の正炭素マグネシウムを含有する水性懸濁液を温度 110～180°C で且つ関係式 $S=\int_{t_1}^{t_2}\{T-100\}dt$ $=\int_{t_1}^{t_2}\{f(t)-100\}dt$ においてS値が $700\leqq S\leqq 4500$ の範囲の条件下で脱炭酸化することを特徴とする塩基性炭酸マグネシウムの製造方法。 ここで， t：正炭酸マグネシウムを含有する水性懸濁液の加熱開始時を基点とした経過時間，〔分〕。 以下の t_1, t_2 についても同様。 T：経過時間（t）における液温，〔℃〕を示し，Tの推移はtの関数すなわち $T=f(t)$ として表わされる。 t_1：加熱開始後，液温が 100°C に到達した

No.	出願番号 （出願月日）	公告番号 （公告月日）	登録番号 （登録月日）	発明の名称	要旨
30					時間，〔分〕。 t_2：100°C≦T≦180°C の領域において脱炭酸化処理を終了させた時間，〔分〕。 S：100°C≦T≦180°C の領域で（T−100）すなわち｛f(t)−100｝を t_1 から t_2 まで経過時間（t）によって積分した数値，〔分・℃〕。をそれぞれ表わす。
31	53-149715 （53.12. 5） （竹本　久雄，五十嵐辰夫）	58-40478 （58. 9. 6）	1209714 （59. 5.29）	多糖類およびその製造法	構成糖としてアロースを含む多糖類。 シュードモナス属に属し，菌体外に構成糖としてアロースを含む多糖類を産生することのできる細菌を培養して，培地中にこの多糖類を蓄積させ，これを分離採取することを特徴とする多糖類の製造法。
32	51-75463 （51. 6.28） （竹内　愛三，長野　弘幸 黒木　斉）	58-43084 （58. 9.24）	1210743 （59. 6.12）	プラスチック成形靴底材の同時成形被覆方法	プラスチック成形機にて靴底材を成形する方法において，予め軟化点 80～170°C を示す接着剤を塗布した被覆材を金型に挿着した状態にしておき，しかる後成形機により 80°C 以上に加熱，溶融したプラスチックを注入し内部を充満させると同時に接着剤を介して被覆材と合体せしめることを特徴とするプラスチック靴底材の同時被覆方法。
33	52-51253 （52. 5. 6） （永野　峰雄，粟沢　茂 丹羽　竜彦）	58-46133 （58.10.14）	1210748 （59. 6.12）	塩化ビニルの塊状重合方法	塩化ビニル重合体，塩化ビニル系共重合体又は塩化ビニル系グラフト共重合体などの重合体を製造するに当り，塩化ビニルモノマーに対して0.005～0.1重量%のセルローズ誘導体の存在下で塊状重合を行うことを特徴とする重合方法。
34	54-143302 （54.11. 7） （麻生　慶紀，鈴木　祐二）	58-46214 （58.10.14）	1210768 （59. 6.12）	接着性に優れた樹脂組成物	エチレン−酢酸ビニル共重合体に1～50重量%の，式 $\left\{CH_2-\underset{Y_1}{\overset{X}{C}}\right\}$ ｛式中Xは水素原子又はアルキル基であり，Yは COOM（式中Mは水素原子又はアルカリ金属である）｝で表わされる反復単位を主体とする水溶性ビニル重合体を0.005重量%～5.0重量%の有機過酸化物を存在させて混合することにより得られる接着性に優れた樹脂組成物。
35	55-47 （55. 1. 7） （佐藤　孝男，清田　徹）	58-46550 （58.10.17）	1210771 （59. 6.12）	塩化アルカリ水溶液の電解方法	カルボン酸基を有するフッ素系陽イオン交換膜を用いて塩化アルカリ水溶液を電解し，苛性アルカリを製造する際に電解槽に陽イオン交換膜を装着し，陽極室に水，又は塩化アルカリ水溶液を，陰極室に1重量%以上の水溶性有機溶剤を含む苛性アルカリ水溶液をそれぞれ満たし，陰極室内の圧力を陽極室内の圧力よりも高く保ち 0～50°C の温度下で1～24時間保持した後，通電を開始することを特徴とする塩化アルカリ水溶液の電解方法。

No.	出願番号（出願月日）	公告番号（公告月日）	登録番号（登録月日）	発明の名称	要旨
36	55-4577（55. 1.21）（西崎 克巳，鈴木 祐二）	58-46215（58.10.14）	1210772（59. 6.12）	接着性に優れた樹脂組成物	エチレン－酢酸ビニル共重合体100重量部に対してポリビニルアルコール1～50重量部を有機過酸化物0.005～5.0重量部の存在下に混合することにより得られる接着性に優れた樹脂組成物。
37	55-103567（55. 7.30）（今浜 敏信，中沢 秀昭）	58-46242（58.10.15）	1210782（59. 6.12）	重合体エマルションの製造方法	イタコン酸またはその塩からなる単量体単位とエチレン系不飽和スルホン酸またはその塩からなる単量体単位およびメタクリル酸エステルとを結合含有する水溶性重合体の存在下，ラジカル重合可能な不飽和結合を有する単量体をpH 5 以下で水系媒体中にて水溶性触媒を用いて重合させることを特徴とする重合体エマルションの製造方法。
38	51-86048（51. 7.21）（相浦 惇，吉田 節夫）	58-48032（58.10.26）	1213032（59. 6.27）	開放循環式冷却水管用腐食防止剤	リグニンスルホン酸塩とリン酸エタノールアミン類との組成重量比が45/55～95/5であることを特徴とする開放循環式冷却水管用腐食防止剤。 開放循環式冷却水管中に組成重量比が45/55～95/5であるリグニンスルホン酸塩とリン酸エタノールアミン類とからなる混合物を10～1000 ppm 添加することを特徴とする腐食防止剤の使用法。
39	55-51115（55. 4.19）（橋本 功二，増本 健 原 基，浅見 勝彦 崎山 和孝，伊原 義尚）（橋本功二と共願）	58-49632（58.11. 5）	1213069（59. 6.27）	電解用非晶質合金電極材料	10～40原子%のPおよび Si のいずれか1種あるいは2種ならびに20原子%を越えるが80原子%を越えない Ir および Ru のいずれか1種または2種を含み，実質的残部として10原子%以上 Pd, Rh および Pt のいずれか1種あるいは2種以上を添加して，全体を100原子%とする電解用非晶質合金電極材料。 10～40原子%のPおよび Si のいずれか1種あるいは2種および20原子%を越えるが80原子%を越えない Ir および Ru のいずれか1種あるいは2種ならびに25原子%以下の Ti, Zr, Nb, Ta のいずれか1種または2種以上を含み，実質的残部として10原子%以上 Pd, Rh および Pt のいずれか1種また2種以上を添加して，全体を100原子%とする電解用非晶質合金電極材料。
40	55-89107（55. 7. 2）（西崎 克巳，山根 伸治 小川 良和）	58-48581（58.10.29）	1213072（59. 6.27）	形成用樹脂組成物	ポリオレフィン系熱可塑性樹脂100重量部，ホワイトカーボン1～200重量部，ポリアクリル酸0.1～100重量部からなる成形用樹脂組成物。
41	54-143332（54.11. 7）（山本 晃，飯田 勝 真道 益夫，大空 清治 小川 滋子）（日産化学より一部承継）（210-2565）	58-46221（58.10.14）	1215448（59. 6.27）	硬質塩化ビニル樹脂組成物	a）平均重合度が300～750であり，エチレン含有率0.5～15重量%，塩化ビニル含有率70～99.5重量%，エチレンおよび塩化ビニルと共重合可能な単量体の含有量0.5～15重量%からなるエチレン－塩化ビニル系共重合体〔A〕100重量部。 b）スチレン25～40重量%，ブタジエン30～60重量%，メタアクリル酸メチル2～15重量%およびアクリロニトリル0～25重量%を含み，かつその －60°C におけるねじり剛性率が 4×10^3kg/cm² 以下である共重合体

No.	出願番号 （出願月日）	公告番号 （公告月日）	登録番号 （登録月日）	発明の名称	要旨
41					〔B〕5～10重量部。 c）炭素数6～30の脂肪族カルボン酸もしくは脂肪族アルコールエステル〔C〕1.5～8重量部。 d）塩基性無機化合物〔D〕2.5～10重量部。 からなり，−20°C における R＝0.01 mm ノッチ付アイゾット衝撃値が 10 kg-cm/cm² 以上，かつ 210°C, 1000 kg/cm² の射出圧力でのスパイラルフロー値が 500 mm 以上である薄肉，大型成型品に向く射出成形用硬質塩化ビニル樹脂組成物。
42	51-36051 （51. 4. 2） （加藤　明美，川上　登）	58-54178 （58.12. 3）	1218494 （59. 7.17）	有価金属成分の分離回収方法	タングステンカーバイトーコバルト系超硬合金スクラップ及び／又は該合金の電解研削スラッジなどのタングステン，コバルト含有物をあらかじめ酸化し，ついで炭素質の存在下350～500℃で塩素化することを特徴とする有価金属成分の分離回収方法。
43	52-867 （52. 1.10） （真淵　俊介，続木　秀秋） 松永	58-48558 （58.10.28）	1218528 （59. 7.17）	テトラヒドロフランの分離方法	メタノールとテトラヒドロフランの混合物またはこれらの含水混合物をアルカリ金属水酸化物水溶液と接触させてメタノールを抽出することを特徴とするテトラヒドロフランの分離方法。 メタノールとテトラヒドロフランの混合物またはこれらの含水混合物をアルカリ金属水酸化物水溶液と接触させてメタノールを抽出分離後得られる濃縮テトラヒドロフランを蒸溜し，メタノールとテトラヒドロフランの共沸混合物を留去することを特徴とする純粋なテトラヒドロフランの分離方法。
44	54-53412 （54. 5. 2） （続木　建治，堤　幸弘）	58-52559 （58.11.24）	1218586 （59. 7.17）	ケタジン類の製造方法	一般式 $\begin{matrix} R_1 \\ R_2 \end{matrix}\!\!>C=NH$ （式中 R_1, R_2 は炭素数1～8の直鎖もしくは分枝状アルキル基又はフエニル基を示し，必ずしも R_1, R_2 は同一である必要はない。また，この R_1, R_2 は互いに結合して炭素数4～8のアルキレン基を形成してもよい。）で示されるイミン類をアルカリ金属或いはアルカリ土類金属のハロゲン化合物を支持塩としアルコール又は含水アルコール溶媒を用い電解2量化することを特徴とする一般式 $\begin{matrix} R_1 \\ R_2 \end{matrix}\!\!>C=N-N=C<\!\!\begin{matrix} R_1 \\ R_2 \end{matrix}$ （式中，R_1, R_2 は上記に同じ。）で示されるケタジン類の製造方法。
45	55-85230 （55. 6.25） （西崎　克巳，小川　良和 山根　伸治）	58-53661 （58.11.30）	1218607 （59. 7.17）	成形用樹脂組成物	ポリオレフィン系熱可塑性樹脂100重量部，ホワイトカーボン1～200重量部，ポリエチレンイミン0.1～50重量部からなる形成用樹脂組成物。

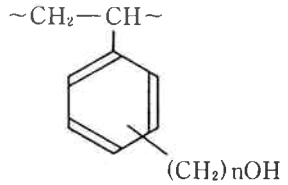
No.	出願番号（出願月日）	公告番号（公告月日）	登録番号（登録月日）	発明の名称	要旨
46	55-133945 (55. 9.26)	58-53642 (58.11.30)	1219651 (59. 7.26)	塩化ビニル樹脂の製造方法	塩化ビニル単量体または，塩化ビニルを主体とするビニル単量体を，水性媒体中で懸濁重合するに際し，分散剤として平均重合度：1000～2500，鹸化度：70～90モル%，4%水溶液の20°C における粘度が 50 cp 以下の部分鹸化ポリビニルアルコール及び，平均重合度70～300，2%水溶液の 20°C における粘度が 500 cp 以下である水溶性セルロースエステルを使用し，上記分散剤量は塩化ビニルとビニル単量体の総量100重量部当り0.15～0.03部使用し，更にこの際，含窒素系の界面活性剤を塩化ビニルとビニル単量体との総量 100 重量部当り 0.009～0.000009部用いることを特徴とする塩化ビニルの製造方法。
	（山本 晃，飯田 勝 三宅 智，富 功 上田 邦生）				
	（日産化学より一部承継）				
	（210-2567）				
47	51-93150 (51. 8.16)	58-57458 (58.12.20)	1221725 (59. 7.26)	複合膜の製造法	高分子を溶媒に溶解した溶液を多孔質物質表面に塗布して該表面に高分子薄膜を形成せしめるに際し，あらかじめ多孔質物質内に高分子溶液と実質上混合しない液体を含浸せしめ更に該多孔質物質内の該含浸液体をその融点以下の温度にもたらすことにより凝固させた後，該多孔質物質表面に該融点以下の温度で高分子溶液を塗布或いは流延し次いで該含浸液体の凝固物が融解せぬ温度において高分子溶液中の溶媒を蒸発除去せしめ，さらに多孔質物質内の含浸液体の凝固物を蒸発あるいは溶媒によって除去することを特徴とする複合膜の製造法。
	（小山 憲治，大野省太郎 清水 明彦）				
48	51-77908 (51. 7. 2)	58-58365 (58.12.24)	1225659 (59. 8.31)	陽イオン交換膜の製法	スルホン酸基またはスルホン酸塩基を含む非架橋型均質フルオロカーボン重合体膜を，水に対する溶解度が室温において 0.1 g/100 g H_2O 以上の有機溶媒で十分に膨潤させたのち加熱処理し，さらに重合性モノマーを必要に応じて架橋剤および／またはラジカル開始剤とともに含浸して重合することを特徴とする陽イオン交換膜の製法。
	（清田 徹，高橋 堅二 浅海 俊一，清水 明彦）				
49	51-103245 (51. 8.31)	58-57299 (58.12.19)	1225662 (59. 8.31)	複合膜の製法	高分子溶液を板上に流延し，この上に多孔質物質を置いた状態で，該溶液中の溶剤を多孔質物質の孔を通して蒸発せしめることを特徴とする複合膜の製法。
	（大野省太郎，小山 憲治 清水 明彦）				
50	51-124819 (51.10.20)	58-58672 (58.12.26)	1225666 (59. 8.31)	電場発光表示板	裏電極上にゼオライトと樹脂結合剤から成る吸湿層を設けることを特徴とする電場発光表示板。
	（六代 稔，藤木 時男）				
51	51-147088 (51.12. 9)	58-58366 (58.12.24)	1225668 (59. 8.31)	陽イオン交換膜の製法	スルホニル基を結合しているフルオロカーボン重合体膜と第一級アミノ基あるいは第二級アミノ基を含むビニル単量体を反応させたのち，カルボン酸基，フエノール性 OH 基あるいはスルホン酸基，またはカルボン酸基，フエノール性 OH 基あるいはスルホン酸基に転換しうる基を結合しているビニル単量体と反応させて膜中のビニル基と共重合すること，さらにカルボン酸基，フエノール性 OH 基，スルホン酸基に転換しうる基を結合しているビニル単量体を用いた場合はカルボン酸基，フエノール性 OH 基，スルホン酸基に転換することを特徴と
	（清田 徹，高橋 堅二 浅海 俊一，清水 明彦）				

No.	出願番号（出願月日）	公告番号（公告月日）	登録番号（登録月日）	発明の名称	要旨
51					する陽イオン交換膜の製法。
52	50-149069 (50.12.16) （清田	58-50621 (58.11.11) 徹，清水	1226315 (59. 8.31) 明彦）	核酸塩基と多糖類とを同時に含むポリイオンコンプレックスの製法	下記一般式  (1)  (2)  (3) （ただし，R_1，R_4 は水素原子または炭素数1ないし4のアルキル基である。R_2 と R_3 は炭素数1ないし4のアルキル基である。Bはハロゲン原子または水酸基である。yは0または1の数である。xは0を含む任意の数である。aは10以上の任意の数である。bは1または2の数である。nは10以上の数である。Xはアデニン，チミン，シトシン，ウラシルまたはエトキシピリミジンである。プリン環は9-位で，ピリミジン環は1-位でそれぞれ反応している。Mは高分子電解質にならないビニル単量体である。）で示される群の中から選ばれた少なくとも1種のアデニン，チミン，シトシン，ウラシルまた

No.	出願番号（出願月日）	公告番号（公告月日）	登録番号（登録月日）	発明の名称	要旨
52					はエトキシピリミジンを含むポリカチオンポリマーとアルギン酸ソーダ，ヘパリン，カルボキシメチルセルロースのアルカリ金属塩，硫酸化セルロースまたは硫酸化メチルセルロースであるから選ばれた少なくとも一種の強電解質型ポリアニオン多糖類を水溶液中あるいは水と混和性のある有機溶媒中で反応させることを特徴とするポリイオンコンプレックスの製法。
53	54-127364 (54.10. 4)	58-53670 (58. 11.30)	1226356 (59. 8.31)	イソインドリノン系顔料の製造法。	粗製イソインドリノン系顔料を芳香族炭化水素溶剤に分散し，これにアルカリ金属若しくはアルカリ土類金属のアルコラート又は水酸化物とアルコール又はアルコールと水とを添加し，該顔料のアルカリ塩を形成し，次いでこれを分離し，分散剤の存在下又は不在下に水に分散し，機械的手段により微細化し，水又は酸を用いて加水分解することを特徴とするイソインドリノン系顔料の製造法。
54	55-84629 (55. 6.24)	59-2454 (59. 1.18)	1226368 (59. 8.31)	接着性樹脂組成物	エチレン－酢酸ビニル共重合体けん化物またはエチレン－酢酸ビニル共重合体けん化物とエチレン－酢酸ビニル共重合体100重量部に対しポリアミン（但しエチレンイミンの重合体であるポリエチレンイミンを除く。）1～20重量部を配合してなる接着性樹脂組成物。
55	50-85844 (50. 7.15)	59-4484 (59. 1.30)	1227965 (59. 9.19)	合金鉄の脱燐・脱炭方法	溶融シリコマンガン又はシリコクロムに固体状カルシウムシリコンを添加することを特徴とする，溶融シリコマンガン又はシリコクロムの脱燐及び／又は脱炭方法。
56	53-49909 (53. 4.28)	58-53669 (58.11.30)	1228084 (59. 9.19)	イソインドリノン系顔料の精製法	粗製イソインドリノン系顔料をクロルベンゼン又はニトロベンゼンに分散し，これにアルカリ金属若しくはアルカリ土類金属のアルコラート又は水酸化物とアルコール及び／又は水とを添加し，該顔料のアルカリ塩を形成し，顔料塩の懸濁液とし，次いで，この懸濁液中で酸を用いて該顔料塩を加水分解することを特徴とするイソインドリノン系顔料の精製法。
57	55-54307 (55. 4.25)	59-6245 (59. 2. 9)	1228166 (59. 9.19)	窒化チタンの製造法	四ハロゲン化チタンとアンモニアの反応により得られる含窒素ハロゲン化チタンをアンモニアを含むガス雰囲気下にて加熱分解し窒化チタンを製造する際，少なくとも 150～400°C の温度範囲を加圧雰囲気として加熱昇温しこれを行なうことを特徴とする窒化チタンの製造法。
58	55-93286 (55. 7.10)	57-43562 (57. 9.16)	1231424 (59. 9.26)	共重合体エマルジョンの製造法	エチレン，塩化ビニル及び酢酸ビニルからなる三元共重合体エマルジョンを製造する方法に於て，モノマー組成比を(イ)エチレン5～30重量%，(ロ)塩化ビニル10～50重量%，(ハ)酢酸ビニル30～85重量%とし，メタクリル酸又はその塩とエチレン系不飽和スルホン酸又はその塩とを共重合して得た水溶性共重合体を前記モノマー総量に対して0.5～6重量%存在せしめて，温度10～100°C，圧力 5～100 kg/cm² の条件下で共重合することを特徴とする共重合体エマルジョンの製造法。

No.	出願番号 （出願月日）	公告番号 （公告月日）	登録番号 （登録月日）	発明の名称	要旨
59	52-86627 （52. 7.21） （菊地 光雄，井川 一成 斉藤 博行）	59-9485 （59. 3. 2）	1233573 （59. 9.26）	炭酸ソーダの製造法	隔膜法塩水電解槽からの電解液と，重炭酸ソーダとを結晶槽で反応させ炭酸ソーダー水塩を晶出させるに際し，結晶槽内母液組成を塩化ナトリウムを 14～20 wt%，重炭酸ソーダを 0.01～2 wt%，苛性ソーダ 1 wt% 以下に維持し，60°C 以上でかつ炭酸ソーダの一水塩と無水塩との転位温度以下で反応を行う第一工程，第一工程で得た反応液(スラリー)から炭酸ソーダー水塩を分離取得する第二工程，第二工程の分離母液に炭酸ガスを反応させる第三工程，第三工程で得た重炭酸ソーダを第一工程で用いることを特徴とする炭酸ソーダー水塩の製造方法。
60	54-79122 （54. 6.25） （清水 治，伊藤 覚 赤沢 道博，山口 章）	59-9632 （59. 3. 3）	1233591 （59. 9.26）	電解槽	隔膜法電解槽の上部に気液分離槽を設けてなるアルカリ金属塩水溶液の電解用電解槽において，水平断面積が電極室水平断面積とほぼ同面積である気液分離槽に直結した，管壁に分散孔を有する或いは有しない電極室液下降流通管を複数個電極室内に設け，該下降流通管の末端出口部を電極室内の下部近傍に位置するように設置してなることを特徴とする電解槽。
61	54-112377 （54. 9. 4） （清田 徹，佐藤 孝男）	59-9633 （59. 3. 3）	1233593 （59. 9.26）	イオン交換膜電解槽用スペーサー材	スルホン酸基を含有するパーフルオロカーボン重合体から成るスペーサー形状物を水と混合性のある有機溶媒で処理したのち，水中に浸漬せしめて成るイオン交換膜電解槽用スペーサー材。
62	51-65665 （51. 6. 7） （井川 一成，菊地 光雄）	59-4377 （59. 1.30）	1231367 （59. 9.26）	カセイソーダ水溶液の精製法	食塩及び塩素酸ソーダを含むカセイソーダ水溶液を塩素型の巨大網状構造を有する MR 型強塩基性陰イオン交換樹脂と 40°C 以上の温度条件下で接触させ，選択的に塩素酸ソーダを吸着除去し，更に該使用樹脂を塩素型に再生後再使用することを特徴とするカセイソーダ水溶液の精製法。
63	51-111836 （51. 9.20） （林 秀繁，崎山 和孝 越智 正春，伊原 義尚）	59-6905 （59. 2.15）	1231377 （59. 9.26）	クロロプレン製造プラントの耐食材料	パラジウムを0.15～0.2%含み残部が実質的にチタンからなるクロロプレン製造工程液処理装置用チタン－パラジウム合金。
64	54-12215 （54. 2. 7） （宮之原 勲，橋本 真一 宮崎 弘）	59-7643 （59. 2.20）	1231410 （59. 9.26）	Y型ゼオライトの製造法	シリカ源としてケイ酸アルカリ水溶液を用いるY型ゼオライト製造法において，ケイ酸アルカリ水溶液とアルミン酸アルカリ水溶液を混合し，混合後の液中組成で M_2O/Al_2O_3（Mはアルカリ金属を示す）（モル比）が5以上となる量のアルカリの存在下で又，SiO_2/Al_2O_3（モル比）を2～10としてゲルを析出させる際，ゲル析出に先出つて少なくとも30秒間混合液を放置し，次いでこれに水を添加してゲルを析出させ，析出したゲルを母液から分離する第一工程，ケイ酸アルカリ水溶液又は，ケイ酸アルカリとアルカリの混合物と第一工程で得たゲルとを混合し，結晶化させることからなるY型ゼオライト製造法。

No.	出願番号（出願月日）	公告番号（公告月日）	登録番号（登録月日）	発明の名称	要旨
65	54-23394（54. 3. 2）（宮之原 勲，橋本 真一 宮崎 弘）	59-7644（59. 2.20）	1231412（59. 9.26）	Y型ゼオライトの製造方法	シリカ源としてケイ酸アルカリ水溶液を用いるY型ゼオライト製造法において，ケイ酸アルカリ水溶液とアルミン酸アルカリ水溶液を混合し，混合後の液中組成で M_2O/Al_2O_3（Mはアルカリ金属を示す）（モル比）が5以上となる量のアルカリの存在下で，又，SiO_2/Al_2O_3（モル比）を3～7としてゲルを析出させる際，混合液を 50°C をこえ 80°C の温度範囲で少なくとも10分間加熱してゲルを析出させ，析出したゲルを母液から分離する第一工程，ケイ酸アルカリ水溶液又は，ケイ酸アルカリとアルカリの混合物と第一工程で得たゲルとを混合し，系の酸化物組成のモル比を $M_2O/SiO_2=0.25\sim0.5$，$SiO_2/Al_2O_3=6\sim20$，$H_2O/M_2O=20\sim80$ として該混合物を 80°C～110°C の温度に維持し結晶化させる第二工程とからなるY型ゼオライトの製造方法。
66	52-73826（52. 6.23）（井川 一成，大貝 理治 菊地 光雄）	59-10932（59. 3.12）	1236689（59.10.31）	炭酸ソーダー水塩の製法	隔膜法塩水電解槽からの電解液とライト灰（軽灰）及び後述の第三工程で得られる重炭酸ソーダを反応させ炭酸ソーダー水塩を得るに際し，(1)60°C 以上に保ったライト灰を供給し，反応液温度 60°C～100°C の範囲に維持しかつ母液中にカ性ソーダ過剰の場合はカ性ソーダ濃度を 1 wt% 未満とし，カ性ソーダ不足の場合は重炭酸ソーダ濃度を 2 wt% 未満とすることを特徴とする第一工程，(2)第一工程で得られる反応液を結晶と母液に分離し，必要に応じて結晶を洗浄する第二工程，(3)第二工程で得られる母液に炭酸ガスを反応させ重炭酸ソーダを晶出させ該結晶を第一工程に供給する第三工程とから成る炭酸ソーダー水塩の製法。
67	54-152386（54.11.27）（藤本 輝雄，永沢 満 大野省太郎）	59-11343（59. 3.14）	1236692（59.10.31）	両性イオン交換体	陽イオン交換基を持つ高分子と陰イオン交換基を持つ高分子とイオン交換基を持たない高分子とが直鎖状に結合した分子構造を持つ両性イオン交換体。
68	52-866（52. 1.10）（藤田 宣宏，井村 信一 今浜 敏信）	59-13464（59. 3.29）	1237900（59.10.31）	モルタルおよびコンクリート用減水剤	スルホン化率15乃至40%である，平均分子量200乃至500の液状クマロン樹脂のスルホン化物を有効成分とするモルタルおよびコンクリート用減水剤。
69	51-119806（51.10. 7）（六代 稔，藤木 時男）	59-13838（59. 4. 2）	1238335（59.10.31）	電場発光体の製造方法	焼成により活性剤によって活性化したII—VI化合物系螢光体の表面上に Ib 族化合物から成る導電層を形成せしめて結合剤で結合する電場発光体の製造方法において，該導電層を形成せしめたのち不活性気体あるいは真空中にて次式により定められる条件で第二次焼成することを特徴とする電場発光体の製造方法。 $-2.00\times10^{-3}\times T+1.60\leq\log t\leq$ $-1.48\times10^{-3}T+3.20$ 但し，$300°C\leq T\leq800°C$ ここでTは焼成温度（℃） tは焼成時間（分）

No.	出願番号（出願月日）	公告番号（公告月日）	登録番号（登録月日）	発明の名称	要旨
70	55-70014 (55. 5.28) (西﨑 克巳，鈴木 祐二)	59-8374 (59. 2.24)	1233605 (59.10.17)	接着剤組成物	ポリビニルアルコールをエチレン－アクリル酸エステル共重合体100重量部に対し，0.1～50重量部配合して成る接着剤組成物。
71	52-144531 (52.12. 1) (野中 悠次，有馬 隆司 木原 啓一)	59-6295 (59. 2.10)	1233887 (59.10.17)	メタクリロニトリルの製造方法	(a)アンチモンと，(b)モリブデンと，(c)カドミウムと，(d)リンと，(e)ストロンチウムおよび(f)酸素とからなる組成物を有効成分として含有する触媒を使用して，イソプチレンをアンモニアと分子状酸素とで酸化することを特徴とするメタクリロニトリルの製造方法（ここでアンチモン，モリブデンとカドミウムの比率（グラム原子百分率）が第１図に示すごとくそれらの金属を頂点とする三角図表において，点A〔Sb＝90，Mo＝5，Cd＝5〕，点B〔Sb＝36，Mo＝57，Cd＝7〕，点C〔Sb＝3，Mo＝57，Cd＝40〕，および点D〔Sb＝78，Mo＝5，Cd＝17〕，の４点を結ぶ不等辺四角形の範囲内にあり，かつリンがアンチモン，モリブデンとカドミウムの合計量に対して原子比で0.001～0.12の範囲内にあり，さらにストロンチウムがアンチモン，モリブデンとカドミウムの合計量に対して原子比で0.001～0.15の範囲内にある。酸素の含有割合は上記各金属が結合して生成する酸化物に対応して決る。）
72	50-105785 (50. 9. 1) (植村 勝，黒木 斉 越田 展弘，小坂勇次郎)	59-8716 (59. 2.27)	1236591 (59.10.17)	被覆金属管	金属管の表面に，低分子量プロピレン－エチレン共重合体の酸化物又は低分子量プロピレンの酸化物２～40重量部とスチレン－ブタジエン共重合体，ポリイソプレン，ブチルゴム，クロルスルホン化ポリエチレン，ポリイソブチレンより選ばれた少くとも１種のゴムを５～40重量部と粘着化樹脂を５～50重量部とアスファルト10～80重量部とを配合してなる組成物を熱溶融被覆したことを特徴とする被覆金属管。 特許請求の範囲第１項で被覆金属管の表面にポリエチレン，ポリプロピレン等の熱可塑性樹脂を外層として被覆した被覆金属管。
73	48-144678 (48.12.28) (竹重 浩佑，堤 幸弘 菊地 光雄)	53-37861 (53.10.12)	1240541 (59.11.13)	テトラヒドロフランの製造方法	ブタンジオール類の縮合エーテルグリコールを酸触媒の存在下に加熱処理することを特徴とするテトラヒドロフランの製造方法。
74	51-133761 (51.11. 9) (清田 徹，清水 明彦 加藤 芳男，橋本 勉)	59-16666 (59. 4.17)	1240556 (59.11.13)	クロマトグラフィー用担体	下記式で表わされる構造単位を含む多孔性ゲルに  （ただし，ｎは０，又は１～３の整数である。） 下記式で表わされる核酸塩基の誘導体を反応させて

No.	出願番号（出願月日）	公告番号（公告月日）	登録番号（登録月日）	発明の名称	要旨
74					$\begin{array}{c} B \\ \vert \\ (CH_2)nCOCl \end{array}$ （ただし，Bはアデニン，グアニン，チミン，ウラシル，シトシンのいずれかであり，アデニン，グアニンは9位で，チミン，ウラシル，シトシンは1位でそれぞれ結合しており，nは1～3の整数である。） 多孔性ゲル中に核酸塩基を結合せしめた核酸関連化合物分散用クロマトグラフィー用担体。

〈実用新案〉　1件

No.	出願番号（出願月日）	公告番号（公告月日）	登録番号（登録月日）	考案の名称	要旨
1	54-142185 (54.10.16) （山口　章，赤坂　道博 松本　叙博）	58-31894 (58. 7.14)	1538920 (59. 4. 5)	フィルタープレス型電解槽用導電ピン	陽極側の実質的にチタンより構成してなる導電部分を陽極室内面にチタンライニングを施した隔壁の該チタンライニングの厚みに相当する厚み以上切削した形状を有するフィルタープレス型電解槽用導電ピン。